

「地域とつながるオンライン日本語コース」

よしのくに み
吉野邦美（公益財団法人 東広島市教育文化振興事業団）

1. 背景

当事業団は東広島市生活環境部市民生活課が事務局を担う「東広島市国際化推進協議会」から委託を受け、日本語教室、日本語学習支援を実施している。現在は、にほんごきょうしつ東広島「にほんごⅠ・Ⅱ・Ⅲ」・「せいかつ漢字」、交流型にほんご教室「にほんごわいわい」、子どもの日本語/学習サポート教室「にほんごひろばU-18」のほか、ボランティアと外国人がペアで活動する「One-to-One にほんご」がある。その教室・活動で、留学・家族滞在・定住/永住/その配偶者・日本人配偶者・就労・技能実習など様々な在留資格の10代～60代の学習者が学んでいる。

2. 課題

東広島市で日本語の基礎を学ぶ教室は、市中心部で開催されており（図）、日本語を勉強したくても、日本語をゼロから学ぶ必要がある人には日本語学習の場を提供できていない。



図

3. 課題解決の方法を考えるために行ったプロセス

- ① 広島県の動きの把握：地域日本語教育の総合的な体制づくりに向けた広島県アクションプランをもとに公益財団法人ひろしま国際センター研修部内総括コーディネーターに県の取り組みを聴取。
- ② 東広島市の周辺地域の課題の把握：東広島市生活環境部・産業部・安芸津支所と安芸津地域の外国人の課題を共有→外国人（技能実習生・特定技能）に「選んでもらえる地域」にならないと、産業が衰退するおそれがある。そのためには、雇用条件や雇用環境のみならず、「働き続けたい場所」にするために日本語学習に特化しない企業内交流も必要である。
- ③ 東広島市生活環境部市民生活課実施の「子育て中の方のための日本語」（GE パートナース株式会社）の申し込み状況を聴取。
- ④ 特定技能1号資格者の状況理解：1）地域と数、2）特定技能1号資格者への今後の希望について聞き取り、3）特定技能1号資格者を雇用している事業所へ今後の雇用について聞き取り、4）介護関係の特定技能資格者/技能実習生に行われている東広島市の日本語支援の集約

4. 課題解決の方法

「地域とつながるオンラインにほんごコース」を開設することにより、日本語学習の場を提供する。

対象：市中心部の日本語教室にアクセスできない(地理的・時間的・心理的理由)ゼロ初級の学習者

教室の目標：①A1 レベルの日本語を学び、地域とつながるための足掛かりを得る

②自立した学習者となるために、オンライン教材の活用方法を知る

授業時間：金曜日 午前 10:00～11:30 全8回

シラバス：JF 日本語生活 Can Do を参考に地域とつながるために必要な場面・トピックを選定。

「つながるひろがるにほんごでのくらし」を中心にまとめ・復習に活用する。

評価：アンケート形式で、Can Do、行動変化、オンライン教材の使用について自己評価を行う。

シラバス：

1 対面	生活の中で聞いたり話したりする（あいさつ・自己紹介）
2 オンライン	暮らす（住所・電話番号・生年月日・日本へ来た日）
3 オンライン	街を歩く（自分のやりたいことを言う・場所を聞く）
4 オンライン	交通機関を利用する（バスに乗る）
出かけてみよう	
5 オンライン	生活の中で聞いたり話したりする（相手の好きなことを知る）
6 オンライン	生活の中で聞いたり話したりする（相手の行動を知る）
7 オンライン	会話を円滑に進める（トラブルシューティング）
出かけてみよう	
8 対面	生活の中で聞いたり話したりする（感想を言う） 「出かけてみよう」報告／打ち上げ／アンケート

5. 実践活動を通して

① 地域日本語教育コーディネーターとして果たした役割

東広島市で行われている日本語学習支援の全体像、外国人市民の把握に努めた。また、地域の団体・個人の活動で外国人市民の受け入れについて意識の共有を行い、お願いできる可能性を模索した。また、外国人ソサエティーに情報を届けるために、個人団体への依頼を行った。

② 地域日本語教育コーディネーターとして大切にしたい視点

日本語を勉強した先にある地域とつながる視点を大切にしたい。そのために、「地域」の協力者・協力団体の発掘と「地域」の協力者・協力団体の広がりへの把握に意識を向けるとともに、外国人市民と交流を行う基礎力（やさしい日本語の普及や異文化体験等）の啓発を行っていききたい。

③ 実践において難しいと感じたこと、今後に向けて

- ・今回の申し込みは10名であった。いずれも市中心部で地理的には既存のにはんご教室に通うことが可能な人たちである。そのため、地理的な理由でにはんご教室にアクセスできない人（市周辺部）にどのような方法で情報を届けるかという点に難しさを痛感した。同時に市周辺部へ周知するためには、東広島市で今後「地域とつながるオンラインにはんごコース」をにはんご教室の一部として定着させる必要がある。定着させれば、各支所への周知依頼、市役所からのにはんご教室のハガキ案内に明記することができる。それに向けて、当事業団内での調整、市担当課との調整、「地域とつながる」ための第一歩をどのように築くかについて模索が必要である。
- ・申し込み者の背景が留学から子育て中の家族滞在など様々で、「出かけよう」を設定することが難しい。
- ・地理的に既存のにはんご教室に通うことができる人であったため、既存のにはんご教室との連携を考える必要がある。

2022年4月現職に着任以来、既存のにはんご教室をコロナ後から軌道に乗せるために、日本語学習支援をより良くすること、より多くの外国人市民ににはんご教室を利用してもらうこと、より多くの日本人市民に日本語学習支援の場にかかわってもらうことに専念してきた。つまり、私自身クラス立ち上げの経験がなかった。今回の研修を通じて、新しいことを始める勇気、クラス立ち上げの難しさ、試行錯誤の楽しさ、多様な立場の方と話すことの必要性を経験できた。